



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

「人は人で磨かれる」

チューリップの花言葉は「博愛」、カーネーションは「無垢で深い愛」、マーガレットは「心に秘めた愛」と花にもいろいろな愛を表現する言葉があります。このようにいろいろな愛の表現がある中で、「ただただ相手のことだけを思う愛」の「無償の愛」という言葉を聞きます。

明治生まれの教育家、東井義雄（とういよしお）さんは、「子どもをまっすぐ育てるには無償の愛を教えること」と述べています。そんな東井さんの著書「いのちの教え」の中に、「おかあさんのかんじょう書き」という話があります。

『進くんという少年が学校へ出かける時、前の夜に書いたメモをお母さんの机の上に置いて、元気いっぱい「行ってきます」と家を出ました。そのメモにはこう書いていました』→

『進くんのお母さんは、これを見てニコッと笑い、その勘定書きのメモに50円を乗せて、机の上に置きました。進くんは大喜びで貯金箱にその50円を入れ、「よし、もっとお母さんのお手伝いをして小遣いを貯めよう」と思ったそうです』

『次の朝、「進！朝ごはんよ」「はい」。起きてきた進くんがご飯を食べようとしたら、食卓の上に1枚の紙があります。見ると、それはお母さんの勘定書きでした』↓

ごうけい	五十円	お母さんへ
婦人会の時のるすばんちゃん	十円	
妹を教会に連れて行きちゃん	十円	
お庭のはきちゃん	十円	
お母さんの肩もみちゃん	十円	
市場にお使いに行きちゃん	十円	

お世話代	進さんが生まれてから、今日までのみんなただ	まいにちのおべんとう代	さむい日に着るコート代	学校の本代、ノート代、えんぴつ代	高い熱が出てハシカにかかったとき
お母さんより					

『これを見た進くんは胸がいっぱいになり、大粒の涙がこぼれたそうです。進くんがお金をこえた世界があることを初めて知った瞬間になりました。進くんは、お手伝いをしてお金なんかいらなかったそうです。お母さんのために自分のことをもっとしようと思ったそうです』

親子であれ、教師と生徒であれ、友だち同士、先輩後輩であれ、「人は人で磨かれる」。

「鉄は鉄をとぐ、そのように人はその友の顔をとぐ」

（箴言 27・17）

（学校長 重枝 一郎）

